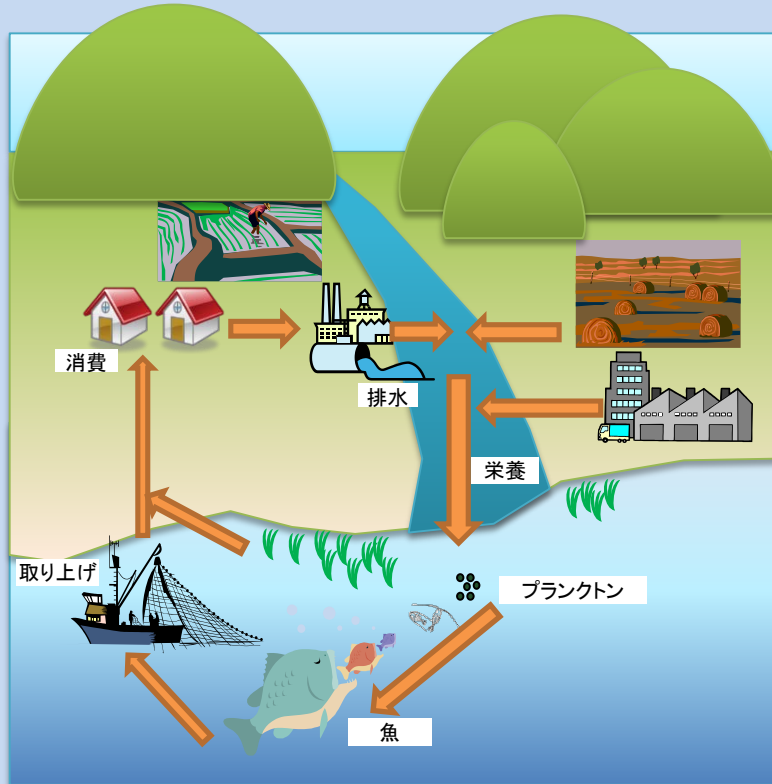


海域のヘルシープラン

～生物多様性に富んだ、豊かで健全な海の構築のために～

海域のヘルシープランとは？

- ✓ 生物多様性に富み豊かで健全な海域の構築に向け、陸域・海域が一体となった栄養塩類の円滑な循環を達成するための効率的かつ効果的な管理方策です。



川から海に流入した栄養は、やがて、プランクトンや海藻に吸収され、魚に食べられます。魚や海藻は食卓に上ったり、肥料になったりして、また川を通じて海へと戻っていくように、栄養が循環しています。

この循環バランスを健全にするための管理計画を「海域のヘルシープラン」と呼んでいます。

豊かで健全な海域（ヘルシーな海）を実現するには？

- ✓ 「海域のヘルシープラン 策定の手引き」を作成しました
- ✓ この手引きでは、以下のような内容を解説しています

はじめに

- ・海域の物質循環健全化に向けたこれまでの 取組・課題
- ・「海域のヘルシープラン策定の手引き」の位置付け

手引きの利用方法

- ・手引きの構成、どのような場面で利用できるのか

I. 海域の“ヘルシー”な状態の考え方

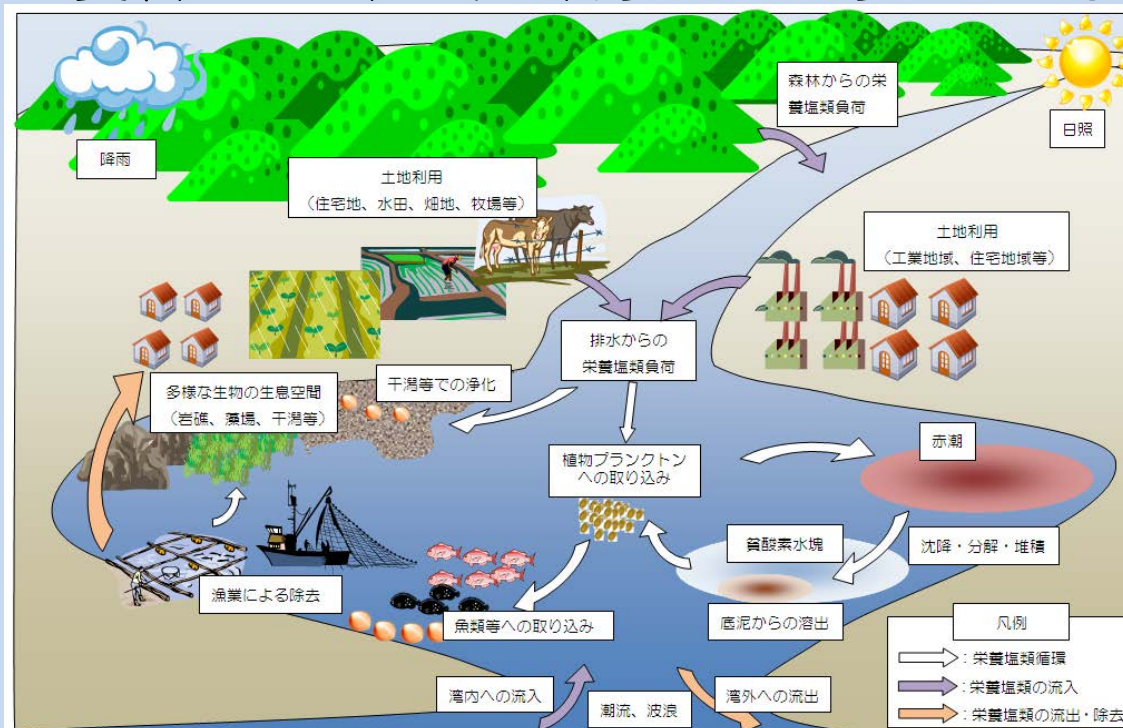
1. 海役割
2. 沿岸の海域の役割
3. 沿岸の海域への人為的関わりと海の物質循環
4. 沿岸の海域における“ヘルシー”な状態とは
5. “ヘルシー”な海域を目指すための合意形成と海域のヘルシープラン策定の必要性
6. 海域のヘルシープラン見直し(順応的管理)の必要性

II. 海域のヘルシープラン策定の要領

- STEP1 現状把握
- STEP2 問題点の抽出
- STEP3 健全化に向けた課題の抽出
- STEP4 基本方針の決定
- STEP5 健全化に向けた方策
- STEP6 方策の実施状況や効果等を確認するためのモニタリング計画
- STEP7 海域のヘルシープランの改善(順応的管理)
- STEP8 「海域のヘルシープラン」の取りまとめ

海が“ヘルシー”な状態って？

- ✓ 河川や海水によって運ばれた栄養塩類は、植物プランクトン→動物プランクトン→小魚→肉食魚と上位の生物へと移動し、食料として陸域に取り上げたりしています。



- 過剰な栄養塩類が海に入ると、貧酸素や赤潮が発生してしまいます。
- 栄養塩類が足りないと、ノリの色落ちが生じたりします。

どちらも海も“ヘルシー”な状態とは言えません

沿岸域は、生物が栄養塩類の循環に大きな役割を果たしています。そのため、手引きでは“ヘルシー”な状態を以下のように定義しました。

「再生産可能な生物資源を生み出す海の仕組みが十分に機能していること」

海域のヘルシープランってどうやって作るの？

- 手引きの「Ⅱ. 海域のヘルシープラン策定の要領」には、“海域のヘルシープラン”を作成するための手順をSTEP1～8に分け、段階ごとに説明しています。

STEP1 現状把握 地域の海の状況を調べよう	STEP5 健全化に向けた方策 海をヘルシーにするためには、どんな方法で？いつ？誰が？何を？するのか決めていこう
STEP2 問題点の抽出 何が問題となっているのか洗い出そう	STEP6 方策の実施状況や効果等を確認するためのモニタリング計画 計画通りに、海がヘルシーになっているか確認しよう
STEP3 健全化に向けた課題の抽出 何を解決すれば、海が“ヘルシー”になるか課題を見つけよう	STEP7 海域のヘルシープランの改善（順応的管理） 今の改善方法をこのまま続ける？見直したほうが良い？モニタリング結果をみて決定しよう
STEP4 基本方針の決定 地域のみんなで、地域の海をどのようにしていくか決定しよう	STEP8 「海域のヘルシープラン」として取りまとめる STEP1～8までをまとめて、地域のみんなで海をヘルシーにする計画を共有しよう

海域のヘルシープラン策定後には？

- ✓ 作成した海域のヘルシープランに基づき、改善方策を実施することになります。
- ✓ ヘルシープランはPDCAサイクルを回し、順応的管理によって見直すことも重要です。

【Plan】

海域のヘルシープラン
策定

【Do】

プランに基づき方策実施

【Check】

モニタリング実施

【Action】

ヘルシープランの見直し

